

ブラジルの「世界7不思議」への執念

近年新興国の優等生として、経済面だけに留まらず、文化、スポーツ両分野においてもブラジルの昇竜ムードとその勢いは衰えることを知らない。

そのブラジルは来年サッカー・ワールドカップを、さらに 2016 年にオリンピック開催を控えて、国内のムードは盛り上がるばかりで国民は益々意気軒昂である。ブラジル人の身体には煽情的なラテン系の血が流れていて、昼夜を分たずサンバのリズムに腰をくねらせ踊り惚ける陽気な一面がある一方で、その国民性は楽天的、大雑把、フレンドリーと見られ多くの人びとから愛されている。

そのおおらかさゆえに多少の背伸びや、何事にも鷹揚で多少のさじ加減は意に介さない好い加減さも持ち合わせている。2007 年7月7日、「7並び」の日に「新・世界7不思議」に選ばれた「コルコバードのキリスト像」選出に際して、国が関わったお節介ぶりと国民性にその本質が表れている。

昨年ルーラ前大統領を巻き込んだ史上最大の汚職事件が摘発された汚職王国ブラジルだが、「新・世界7不思議」選出が科学者や専門家に依らず一般人の投票によるものと発表されるや、国は威信を賭けてメディアと金融機関の支援を得て、投票への電話とインターネットによる通信料をすべて無料にして国民に投票を訴える大キャンペーンを展開し、見事栄誉を射止めたのである。

コロッセオ、ペトラ、タージ・マハール、万里の長城、チチェイン・イツァ、マチュピチュなど古代、中世に築かれた6つの名だたる世界文化遺産に伍して、建設 100 年にも満たない 1931 年ブラジル独立 100 周年記念に国の誉れの PR として山上に建てられた巨大なキリスト像が、「新・世界7不思議」に選ばれた摩訶不思議の謂れである。これぞ「不思議の中の不思議」と呼ぶしかあるまい。

幸い昨年コパカバーナ海岸を取り囲む一帯が、「リオの山と海に挟まれたカリオカの景観」として世界自然遺産に登録され、その景観に「コルコバードのキリスト像」が包含された。このキリスト像も世界遺産登録効果で価値が上がり、何とか「7不思議」の1つとしてお墨付きを得たわけである。

(近藤節夫)